

市長の窓

しげ のぶ
滋宣の

ぼう ちゅう かん あん ちゅう めい

“忙中閑あり暗中明あり”

その 53

～ 春愁 ～

日も長くなり、暖かくなる季節なのに、なんとなく気だるく感じたり、物思いにふけったりすることがあります。

こうした物思いが「春愁」で、「春の愁い」ともいいます。

「愁い」は日本独特の情緒を表していますが、「春愁」「春の愁い」という言葉には、日本的な季節感があります。

しかし、同じような言葉である秋の場合の「愁思」「秋あわれ」などは、夏に向かう春と、冬に向かう秋とでは、季節感が反対であることから、同じ物思っても質や内容に違いがあるようです。

春と秋は、心身が季節の変化に対応できず、自律神経が失調しやすく、季節の微妙な変化にも心が動かされる季節でもあります。気をつけましょう。

春愁や草を歩けば草青く
(青木月斗)

能代市長 齊藤 滋宣



3月26日、二ツ井町公民館できみ恋カフェで提供する新メニューの試食を行いました。